

第58回福井県青年問題研究



地域を盛り上げる
「福井県連合青年団」

参加者： 団 長 齋藤 法之（鯖江市） 事務局長 北川 極己（福井市） 理 事 齋藤 彰宏（鯖江市）
理 理 山本 恵範（越前市） 理 事 横井 理恵（鯖江市） 事務局員 佐々木 麻衣（越前市）

地域に密着した青年組織といえば「青年団」。そんなイメージが定着しているが、近年の地域社会と青年の意識変化の中で、最近の「青年団」はどのような活動を展開しているのか。長い伝統を引き継ぎながらも新たな変革を目指して奮闘する「福井県連合青年団」の役員の皆さんに、活動への想いを語っていただきました。

県内七市町の
七百人が加盟

—現在の福井県連合青年団の組織はどのような状況ですか。

一昔前は、市町の中にある各地区の青年団「地区団」で、市町ごとの連合青年団をつくり、その上部団体としての福井県連合青年団に加盟する方式が主流でしたが、今では、各市町内の地区団も連合青年団も消滅しているところが多く、現在、市で連合青年団として加盟しているのは鯖江市だけです。ですから、市町の地区団が県連合青年団に直接に加盟したり、個人として入ってくる場合もあります。市町で分ければ現在は福井、鯖江、越前、大野、池田、小浜、

永平寺など七市町の青年団の仲間が連携しながら活動しています。

加盟人数は約七百名で、年齢は特に制限などしていませんが、十八歳から三十五歳くらいの人が多いです。

県連合青年団は略称として「県団」という呼び名で親しまれています。

—事務所や財政、役員体制はどうなっていますか。

県連合青年団の事務所は、以前は福井中央公園の県民会館に接続していた「婦人青年会館—青年館」でしたが数年前の県民会館取り壊しに伴い、現在は福井県松本合同庁舎の近くにある「旧職員会館」の中にあります。会費やイベ

ント参加料、県からの事業補助金などが主な財源です。役員は十一名で鯖江、福井、越前、若狭の青年団から選出されています。その内、女子は三名です。

主に夜の活動が多いので大変です。全員が揃うのは早くても九時頃になりますから会議の終了は常に真夜中、イベント前などは明け方の三時から五時になることも珍しくありません。会議の場所も事務所だけでなく、役員の自宅や居酒屋など遅くまでいても良いところや集まりやすい所で開いています。

です。この三つの活動は青年団活動を体験した人なら必ず思い出のある活動だと思えます。

六月に開かれる「若体」、今年第六十七回大会で越前市で開きました。越前市内の青年団体を中心とした実行委員会を組織して取り組み、楽しさや運動を通じて多くの仲間を集めました。「若文」は十月に小浜市で開き小浜市青年団主管のもと、当日の地元イベントである「食まつり」と連動したものに予定です。

また、十一月には全国の青年た

伝統事業と 新規活動で 活性化

—主な活動は、どのようなものですか。

最大のものとは伝統的に引き継がれている「若越青年大会文化部門―若文」「若越青年大会体育部門―若体」「県青年問題研究会」の三大活動



若越青年体育大会



若越青年体育大会

ちが結集する東京での「第六十二回全国青年大会」にも、体育、文化の両部門に参加します。「青年問題研究会」は来年一月に福井市で開き「青年団力アップ」をテーマとして考えています。他にも県連合青年団としての「県団ボーリング」「BBQ」、東北大地震災被災地訪問の「県団研修旅行」、**「県団イベント」**「県団登山」、**「県団TV」**など、いろいろ楽しい活動を企画中です。

今年の県団テーマは、「俺たちに未来なんてあるのかないのかわかんないけど 一歩でも半歩でも前に進もうとするだけだ」というもので、青年団ひいては青年が置かれた環境を良くすることを考え

ながらやっていきたいと思います。



若越青年文化祭 福井駅周辺

—市町や地域の青年団活動にはどのようなものがありますか。

それらの青年団は、地元の伝統行事や地域活動を続け古里の中に溶け込んでいる感じですね。代表的なものでは昔からの「お祭り」や「盆踊り」、**「伝統行事」**の中核となつて支えています。

他にも「地域清掃ボランティア」「子どもたちとのキャンプ」「サンタ事業」「成人式の企画運営」、また、池田町の「大規模な



地元の祭りの先頭に

福井市酒生地区まつり



エコキャンドル」、大野市の「六呂師友縁地」という婚活イベント、鯖江市連主催の「鯖江フェスティバル」、福井市酒生地区の「酒生ウォーガー」など新しいイベントへの参画も最近は目立ってきました。

インターネット、映像、高校との連携も取組中

—青年団の組織拡大などの取り組みは行っているのですか。

県内の多くの青年に青年団活動に参加してほしいと思っておりますが、最近の雇用形態や、地域社会の変化、青年の「組織」というものに対する意識などにより、なかなか思うように進まないのが実態です。それでも少しでも増やしたいと思って各種活動の工夫や自治体への要請活動などを行っております。

例えば、昨年の「若文」は福井駅前で開催、仁愛高校と敦賀高校の書道ガールズを招いたり、ステージや映像活用などを図って一味ちがうアピールをしました。実行委員には福井市の若手職員にも多く参加してもらいました。

他に、県内各地で開く活動やイベントでは、地元の青年を中心とした実行委員会を設置し、その中に青年団以外の人にも参加しても

敦賀高校書道部の作品をアオッサに飾る



らい連携協力の幅を広げています。行政に対しては、首長や関係部署の方々を訪ねて、行政としても地域の青年団活動の活性化の対策を立ててほしい、市の若手職員に青年団活動に参加するよう呼びかけてほしいとお願いしています。首長が積極的な所では成果も出ていると感じています。

活動のPRや広報でも、インターネット時代に対応したものをと考え、ブログ、フェイスブック、映像などを活用し、いつでも、どこからでもアクセスしやすいように工夫しています。これからも映

像などの充実を図る予定です。

「青年団」の基本は「地域密着」の活動です

—青年団活動をどうして始めたのですか、魅力はなんですか

無理矢理に誘われて入ったけれど、今は仲間と一緒にやることの楽しさを味わっています。県外から福井の大学に来たが、地域の人たちとの触れ合いの中で人と人との絡みがあって面白いのです。

青年団には軽い気持ちで入りましたが、仕事の中では話せないことが気楽に話せる場所ですね。人前で話すことが苦手だった自分が話せるようになったのも青年団のおかげと思っています。

イベントに参加することにより、しだいに仲間が増え、地元での交流にも恵まれました、基本は好きでやっている感じです。

大人になると子ども達との触れ合いが少なくなるが青年団活動を通して地域の子どもたちと付き合えるのは楽しいです。

同世代の人たちとの出会いがあつて職場では得られないものがあると思つている。

青年が人として成長する所であり、道場のような場とも思う。職場での縦割りや力関係、上司との命令関係がないところがいい。

楽しさを自分たちで作れるところに魅力がある。娯楽を消費するのではなく、自ら作り出すところ。面白いことをやっても金がかからないですし。

最近、パラレルキャリアという言葉で、仕事以外にプライベートな時間に別の活動を行うということが注目を浴びつつあります。青年団活動はそんな横文字ができる前からそのような活動を行っている。大先輩曰く、「青年団、特に県団役員をすることは二つの人生を歩んでいるようなものだ」と。

また、上から出来上がった組織でなく、下から地域単位から出来上がつていて、常に地域のことを考える組織である点も魅力だと思つています。

全国大会などに参加して、色々な視点や幅広い活動をみると刺激を受けますね。

青年団の根本は、自分たちの地

域を愛し、その発展のために地域に密着した活動が続けるといふ伝統が守られている点にあると思つています。

— 社会問題や政治との関わり方は変化していますか

昔の青年団は「青年議会」や、青年団活動を通じて議員などに出ていく人が増えたが、最近はやまれないと思う。

沖繩、広島、北海道などでは、基地や原水爆禁止、北方領土の問題など活発に行われている。福井県の場合、大きなテーマではなく地域コミュニティへの参画などが中心となっています。

当面の活動として、東北の被災地訪問を企画しています。他にも、今後は、先輩たちとの交流を通して、いろいろ考えていきたいです。

— 今後の目標は何ですか、青年団として、あるいは個人として何かありますか。

第一は新しい仲間を増やしたい

動していきたいです。

行政の若者も地域住民の一人として活動に参加してほしい

— 自治体や職員の皆さんへのメッセージはありますか。

自治体としても、青年団が地域にとつても大事な団体であり、将来の地域づくりに欠かせないものだといふような認識をして、その育成や活性化の施策を考えてほしいです。

また、自治体で働く青年の皆さんには、自分の住む町を良くしたいという思いで就職されたと思いますし、皆さんも地域住民の一人ですから、市役所など職場だけでなく、地元の青年の一人として青年団や地域活動に参加してほしいと思います。

今日はお忙しいなか、皆さんありがとうございます。福井県連合青年団の益々の発展を期待しています。

(聞き手 編集部 伊藤藤夫)

国際交流事業・タイの青年たちと



です。たくさんの人たちと出会つて団としても自分としても視野を広めたいです。

女性が入りやすい雰囲気を作りたいと思つています。

全国大会に行つたり活動して感動したことを若い人に伝え、青年団の良さをもつともつとPRしたい。後継者をつくりたい。

まずは青年団が存在し続けることが大事なので、その仕組みを作りたい。やはり青年団は地域に多くの貢献をしている事実をしつかり伝えたいです。

今年の県団テーマでも話しましたが、そのような意思を持つて活